

もっと平田を元気にしていくために。 ずっと平田で暮らしていくために

平田地域ビジョン2

期間 平成30年9月1日～平成35年3月31日 / 策定者 平田地域協議会



深刻さが増す人口減少、超少子高齢化
・・・平田地域ビジョン2の策定にあたって・・・
平田地域協議会 会長 長谷部 耕次

先輩方が作成されました「平田地域ビジョン」の期間が満了したため、私たち平田地域協議会で協議し「平田地域ビジョン2」を策定しました。今年策定された「酒田市総合計画」との整合も心がけました。

平田地域協議会では、本地域の発展に向け、今後も様々な提言を行ってまいります。地域の皆様におかれましても、それぞれのお立場からご意見をお寄せいただきますよう、心よりお願い申し上げます。

■ 地域で暮らし続けていくための課題

全国的な人口減少、超少子高齢化に先行するように、平田地域の生活環境は厳しさを増しています。6年前の「平田地域ビジョン」策定から、さらにこの状況は深刻さを増しています。

除雪作業や緊急時に備えた見守り、自治会等で行う共同作業(除草等)にも支障が出てきています。

地域の安全・安心な生活環境が脅かされてきています。

●平田地域における少子・高齢化の推移(国勢調査による)

	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年
人口	7,547人	7,232人	6,930人	6,544人	6,072人
内0歳から14歳	16.4%	14.3%	13.1%	12.3%	11.7%
内65歳以上	23.7%	27.1%	28.9%	30.1%	34.5%

■ 今後も住み慣れた地域で暮らし続けるために

財政難、職員数の減により、行政に何でも依存することはできない時代です。このため、日常生活支援、介護予防、災害時対応、地域の環境整備等、多くの分野でコミュニティ振興会や自治会に寄せられる期待は大きくなってきております。資源(強み)や課題(弱み)は地域ごとに異なることから、住民が主体的に参画し協働して取り組むことが求められています。

■ 平田の資源(強み)を活かし、安心して暮らせる地域を

主要道の整備が進み市街地から総合支所まで車で20分程度であることを活かして、定住人口の安定化を目指します。

豊かな自然と景観を資源として、「酒田の里山」を目指し、交流人口の拡大を図ります。

- ①彫刻家石黒光二氏の作品を巡る「彫刻の散歩道」、他施設にある絵画や書も紹介し、「芸術の平田」をPRする。
- ②悠々の杜、胎蔵山、経ヶ蔵山などをジョグ・ウォーク・散歩コースとして紹介・PRして、利用者拡大を図る。
- ③生涯学習センターを中山間地体験の拠点とし、情報の集発信、休憩、宿泊の基地にする。
- ④JR砂越駅と連携したイベントを企画する。



ビジョン1 コミュニティ振興会の確立

コミュニティ振興会の強化・確立による、「地域力」の向上を

1. 現状・課題

- (1) コミュニティ振興会、自治会は、住民要望の取りまとめや行政情報の伝達など、行政施策に欠かせない協力関係が築かれ、安全安心で住みよい地域づくりの中心的な役割を果たしている。
- (2) 少子化により、子どもを通して親が交流する機会が減っており、子育てや教育についての情報交換や相談の場が求められている。
- (3) 高齢化、人口減少が進み、自治会で行う共同作業にも支障がきたしている。

●平田地域の各自治会において65歳以上が占める割合(平30.3.31)

10%台	20%台	30%台	40%台	50%台	計
0	3	14	17	5	39自治会

2. 目指すところ

田沢コミュニティ振興会では、平成29年度から4年間の事業で地域づくり推進モデル事業に取り組んでおり、住民中心のワークショップやアンケート調査が行われています。コミュニティ振興会毎に、地域の課題や今後のありたい姿を住民が主体的に参画・協議し、計画(ビジョン)を策定し、実行することが必要です。

この計画では、地域外からの収入を得る活動や「小さな拠点」の形成を目指すなど今までにない積極的な取り組みも検討し実行する計画です。

計画実現のために、行政、関係機関よりご協力いただくと共に、地域おこし協力隊や外部人材の活用も行います。

3. 実施すべき施策

- (1) コミュニティ振興会ごとの対話型ワークショップを開催し地区計画(将来ビジョン)策定する。
- (2) 地区計画を実現するため、必要に応じてコミュニティ振興会の組織体制を見直す。
- (3) 行政、関係機関は計画実現のための活動に協働し、支援する。
- (4) 行政は自治会活動維持・強化のため、自然災害危険箇所等の地域事情を考慮した支援を行う。



ビジョン2 安全安心の地域づくり

みんなが安全に、安心して、「ここで暮らしていける」地域を

1. 現状・課題

- (1) 高齢者のみの世帯が増え、買い物や通院など日常生活の足、除雪など安全な暮らし、緊急時に備えた見守りといった部分で、不安を抱えながら生活する人が増えている。
- (2) 高齢者などの要援護者について、災害時における安全を確保すべく、避難・誘導体制を構築する必要がある。
- (3) 河川や急傾斜地に隣接するなど、自然災害の影響を受けやすい地域があるうえ、近年は大雨等による被害が増えている。

2. 目指すところ

人口減少が進む地域で、安全に安心して暮らしていくために、また生活弱者に優しい地域づくりを進めるためには、住民同士の支え合いや、地域と行政との連携が今後ますます重要となってきます。

福祉や防災の面における、自助(住民一人ひとりの努力)・共助(住民同士の相互扶助)・公助(行政の制度など)のあり方について、地域全体で意識の共有を図りながら、コミュニティ振興会、自治会、社会福祉協議会、地域包括支援センター、消防団といった団体・機関同士や行政が相互に協力し合い、それぞれの持ち場において、福祉サービスや災害に対する備えなどを実施します。

3. 実施すべき施策

- (1) 「暮らしの足」である公共交通の維持。
- (2) 高齢者等に対する見守り、通院、買い物など日常生活を支援するシステムの構築。
 - ① 中山間地域における食料品や日用品などの買い物について、意欲ある事業者(移動販売車、ネットスーパー、店舗開設、宅配等)に対する支援。
 - ② 年金支給日に地域を廻る臨時バスを運行。
- (3) 除雪等が困難な高齢者等について支援するための仕組みづくり。
 - ① 既存の支援制度の充実や改善も含め、冬期間の不安解消と安全確保に向けた制度づくりの推進。
- (4) 非常事態に地域防災計画が確実に実行されるように、避難・誘導体制を構築。
 - ① 水害時に危険な場所にある避難場所について誘導方法を再検討。
 - ② コミュニティ振興会ごとの防災訓練の実施、防災資機材の充実。
 - ③ 自治会の防災資機材の充実。
 - ④ コミュニティ振興会ごとの避難所運営マニュアルの作成。
- (5) 防犯と交通安全のために市道平田中央線(飛鳥・砂越商業地)の防犯灯整備

農商工連携の先進地として、
地域の宝を生かした

「平田」ブランドづくりを

1. 現状・課題

- (1) 「農」を基盤とした「食」に関わる企業が多い。
- (2) 飛鳥ブランド事業により、地元の子どもの夢（アイデア）を地元企業がかなえた（製品化した）後の商品について、産直施設等で販売しているものの飛鳥(平田)ブランドとしての販売戦略が確立していない。
- (3) 米の生産調整の大幅な見直し等による農業への影響が危惧される状況のなか、農業後継者が不足し、離農を希望しても受け手を捜すのが困難な状況となっている。
- (4) 植林された森林について、伐採期を迎えている木が多くあるが、手入れが行き届かず、放置されている箇所が多い。
- (5) 後継者の減少や郊外型大型店の影響などにより、個人経営の商店や商工会の会員が減少している。

2. 目指すところ

平田地域には食品製造業が多く、またそれぞれの企業が意欲的に製品開発や生産を行っている農商工連携の先進地です。この地域特性を生かし、企業と農業者が連携した、安全で安心な地元産の米や転作作物、園芸作物、畜産物等を原料とする食品の生産による産業振興を推進します。また、「平田赤ねぎ」「庄内柿」などを地域内の企業が加工したりするなどの、特産品開発に対する取り組みを推進します。こうした、平田が持つ意欲的な企業、優れた農産物、地域の宝を生かし、「平田」ブランドづくりを目指します。

3. 実施すべき施策

- (1) 「平田」ブランドづくりや特産品の開発に対する原料（農産物等）の生産、加工、販売までの一体的な支援。
- (2) 水稲単作から複合化（園芸への取り組みなど）への転換の推進。
- (3) 水田の規模拡大を希望する農業者が、過度な負担を感じないで経営面積を拡大していける仕組みや組織の構築。
- (4) 酒田産木材について、木材人工乾燥施設等の活用も含め、森林の維持・管理、生産から利用までの総合的な支援体制の拡充。
- (5) 林道等の維持補修・改良・延長等
 - ① 木材の生産性向上、災害防止等、森林が持つ多面的機能の確保に向けた林道等の整備。

癒しに、体験学習に、健康づくりに、
来たくなる里山に

1. 現状・課題

- (1) 山形県の「日本一の滝大国山形」の中にも選定されている十二滝、「やまがた百名山」に選定された胎蔵山・経ヶ蔵山、まご滝、山谷堤といった、里山の豊かな自然を備えている。
- (2) ひらたタウンセンター、ひらた生涯学習センター、旧阿部家、ピクニックランド、B&G海洋センター、小林温泉、アイアイひらた、めんたま畑といった、訪れる人の多様なニーズに対応できる施設を備えている。
- (3) 団塊世代における健康志向の高まりの中、里山や自然散策などへのニーズが増えている。
- (4) 地域内で、ツアーの企画や実施、特産品の開発や販売といった活動を行っている団体やNPOの意欲が高まっている。
- (5) 地元出身の彫刻家石黒光二氏が平成28年日展彫刻部門で内閣総理大臣賞を受賞され、改めて内外より注目を集めている。

2. 目指すところ

人々が「癒し」や「ゆとり」を求める時代の中で、気軽に遊びに行ける「酒田の里山」を目指し、交流人口の拡大を図ります。悠々の杜、胎蔵山、経ヶ蔵山、眺海の森などをジョグ&ウォークコースとして紹介し、健康志向者等の利活用を増加させます。また、石黒光二氏の作品を中心とした「彫刻の散歩道」をPRし、併せて各施設にある平田の芸術・文化財を紹介し、さらなる平田の魅力を発信します。首都圏ふるさと平田会、海津市との「平田っ子交流会」、また、訪れた「平田ファン」「里山ファン」との交流を推進し、住民の地域に対する誇りや地域愛を高めます。

3. 実施すべき施策

- (1) 観光資源を整備、充実。
 - ① 十二滝は観光と地域信仰文化の資源として整備を検討。
 - ② 胎蔵山と経ヶ蔵山は、1200年に及び地域信仰の文化資源であり、その行事を受け継ぐ山としてPR。安全性、踏破性向上に向けた登山道を整備。
 - ③ 自然、伝統行事、技術、農産物、加工品といった地域資源についての情報発信。特に電子メディアの利用。
- (2) 中山間部各地点の情報をネットワーク化しひらた生涯学習センターで集中管理すること。
 - ① 地域の自然・施設の利活用情報をセンターに集め、発信する。
 - ② 中山間地域のビジターセンター的な機能を発揮するための組織体制の見直し。
- (3) ジョグ&ウォークコースの整備とPR。
- (4) 旧阿部家の利用拡大のため、軽食等の提供を可能とする施設整備。
- (5) 伝統芸能などの継承（後継者の確保等）に対する支援。
- (6) 「彫刻の散歩道」や各施設にある平田の芸術・文化財を積極的に紹介するとともに、展示、保存について検討。

どこに行くにも便利な、
緑豊かで住んでみたくなる郊外田園地域を

1. 現状・課題

- (1) 旧3町地域の中心に位置しており、飛鳥・砂越から日本海総合病院まで10分程度、市役所までには20分程度と、移動時間も短い。
- (2) 道路網の整備が進んでいる。
 - ※国道345号、県道砂越余目線（広域農道）、主要地方道酒田松山線（飛鳥バイパス）、国道47号余目酒田道路（高規格道路/インターチェンジ）東北横断自動車道のジャンクション
- (3) JR砂越駅がある。
- (4) 平田総合支所、ひらたタウンセンター（図書センター、ホール、集会室、会議室、機能訓練室（トレーニングルーム）、保健室）、保育園、小学校、中学校、郵便局、銀行、農協、医院、スーパーマーケット、コンビニエンスストア、消防本部、酒田ふれあい商工会、北庄内森林組合などの施設が集中している。
- (5) 市街地と比較し、宅地の価格や賃貸借住宅の家賃が安価である。
- (6) 豊かな自然を備えている。
- (7) 空き家が増加して、台風時等に隣接家で不安を感じることもある。

2. 目指すところ

平田地域は、旧3町の中心に位置することや道路網が整備されていることに加え、平野部においては、公共施設、学校、金融機関、医療機関、商店など、日々の生活に必要な各種機能を備えています。こうした「地の利」を生かし、少子・高齢化や人口減少による地域活力の低下、担い手不足、空き家の活用といった課題の解消に向け、また、他から酒田市へ、都会から田舎へ、といった移住ニーズにも対応すべく、定住人口の拡大を目指します。

3. 実施すべき施策

- (1) 整備された道路網による高い利便性や土地価格面での優位性などを踏まえた、平野部における「住みよい地域づくり」の総合的な推進。
 - ① 飛鳥バイパスの開通などによる、砂越駅の利用形態の変化に対応した、駅北側における駐車場や駐輪場の整備。
 - ② 平田地域の中心としての賑わいづくりに向けた宅地造成。
 - ③ 小児科医院を誘致
 - ④ 誰でも出入り自由な親子交流できる「場所」の設置。
- (2) 生活道路・側溝整備、安全な住環境を整備するための排水対策。
- (3) 空き家への入居対策、空き地の活用対策。
 - ① 「住んでもらう」ための、支援制度の創設。
 - ② 空き家バンクの制度づくり。